

「ねらいの提示」「指導」「まとめ・振り返り」を意識した体育科の実践事例

本時の概要	教科・学年	体育科・小学校6年
	単元名	陸上運動「ハードル走」(5/8)
	ねらい	ハードル走の特性に応じた技能を身に付け、自己の目標とする記録に挑戦することができる。(運動の技能)

単元の構成を工夫します。

授業を充実させるためには、低・中・高学年の3段階で示された各学年の目標についてそれぞれ **2年間を見通し、内容の系統性、発展性を考慮した単元計画の工夫改善を図る**ことが大切です。単元をとおして、**運動の特性に十分触れ**ながら、**次時への学習意欲を高める**ことができるような学習過程を工夫しましょう。

＜単元計画の例＞

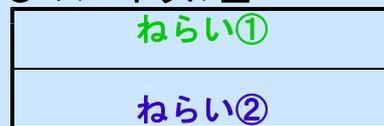
時間	1	2	3	4	5	6	7	8
(分)	①集合整列挨拶→②準備運動・導入運動→③準備・場づくり→④ねらいの確認							
10								
40	○学習の見通しをもつ	競争型 <ねらい①> ○自分に合ったインターバルを選び、リズムカルにハードルを走り越し、友達と競争を楽しむ。			達成型 <ねらい②> ○練習の方法を考え(選び)、自己の目標とする記録に挑戦して楽しむ。			記録会 ○自己の記録に挑戦する。
		①整理運動→②振り返り→③集合・整列・挨拶						
評価	関	関	思	技	技	思	技	関

○ ステージ型



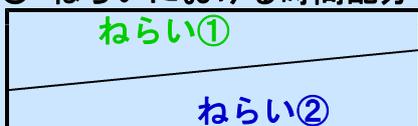
単元の流れ (時)

○ スパイラル型



単元の流れ (時)

○ ねらいにおける時間配分を変化させた型



単元の流れ (時)

○ 前半と後半で構造を変化させた型



単元の流れ (時)

導入

ねらいの提示

学習課題を意識し、前時までの学習内容を生かしたねらいの提示をします。



前の時間の学習を振り返ってみましょう。
どんな点に気を付けながらハードルを走り越しましたか。

- ・リズムカル（3歩～5歩）にハードルを走り越しました。
- ・私は、6mのインターバルが自分に合っていました。



さらに速くハードルを走り越すにはどうしたらいいですか。

- ・第1ハードルにしっかり足を合わせます。（スピードに乗って）
- ・ハードルを低く走り越すといいと思います。
- ・抜き足や振り上げ足に気を付けたらいいと思います。



皆さんの意見から、速く走り越すためのよい動き（コツ）を身に付けることが大切だということが分かります。

めあて

上体を低くし、遠くから踏み切りハードルを走り越そう。

展開

指導

考えを深め広げ主体的に学び合います。

ハードル走の指導を充実させるために、次の2点を心がけましょう。

①運動の楽しさや喜びに触れることができるように運動の場やルールを工夫する。

ハードル走の楽しさや喜びに触れることができるように、競争や記録の達成の仕方を工夫します。

②課題の解決の仕方がイメージできるように活動の仕方を工夫する。

自己の課題解決に向けて、課題を明確にもてるよう資料や発問等を工夫します。

終末

まとめ・振り返り

学びの手応えを実感できる振り返りをします。

今日の授業を振り返ってみましょう。よい動き（コツ）ができるようになった人は、どこがよくなりましたか。また、頑張って練習していた友達や、ハードリングが上手になった友達も紹介してください。



<児童の振り返り>

友達が、「踏み切ったときに上体を前へ出すといいよ。」とアドバイスをしてくれた。教えてくれたことに気を付けてくり返し練習した。すると前より上手に跳べるようになった。他の友達にも「上手になったね。」と言われ、自信もついてきた。ハードル走が楽しくなった。記録にも挑戦したい。

※ 自己評価カードや相互評価カードも有効に活用しましょう。